

2 地域ごとの生態系の特徴

本書の検討対象地域について、地域ごとの生態系の特徴を把握するために、環境要素である地形、地質、土壤、植生を基に生態系の特徴を総合的に示した生態系区分と流域界や生態系の構成要素の違いに着目した地域区分を行った。

生態系の特徴を示す生態系区分は22区分、地域区分は豊川、矢作川、天竜川の3水系14地域に区分された（図2-12）。各地域区分の生態系の特徴を表2-1に示した。生態系区分及び地域区分の詳細については資料編に示すとおりである。

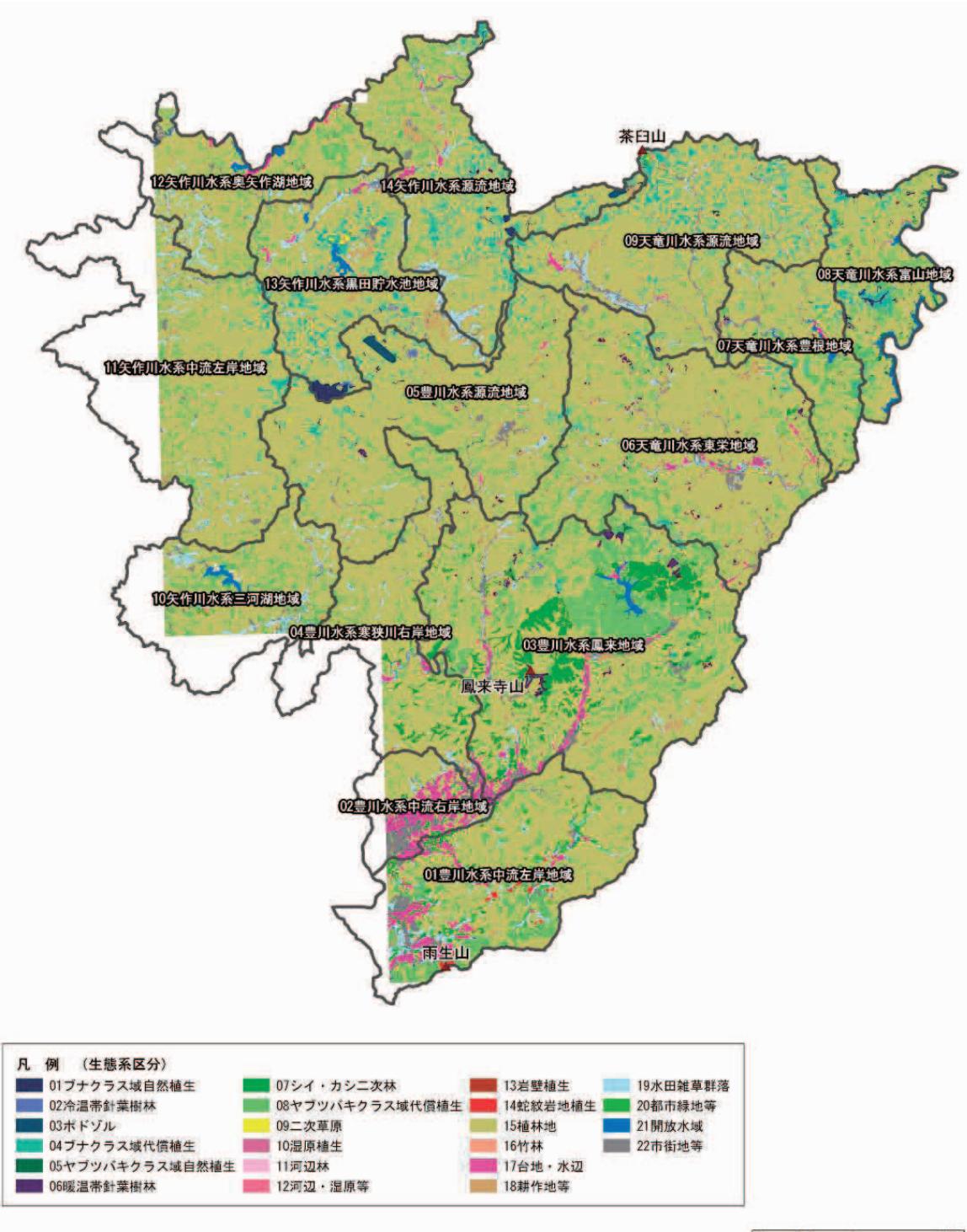


図2-12 生態系区分と地域区分

（出典）環境部資料より作成

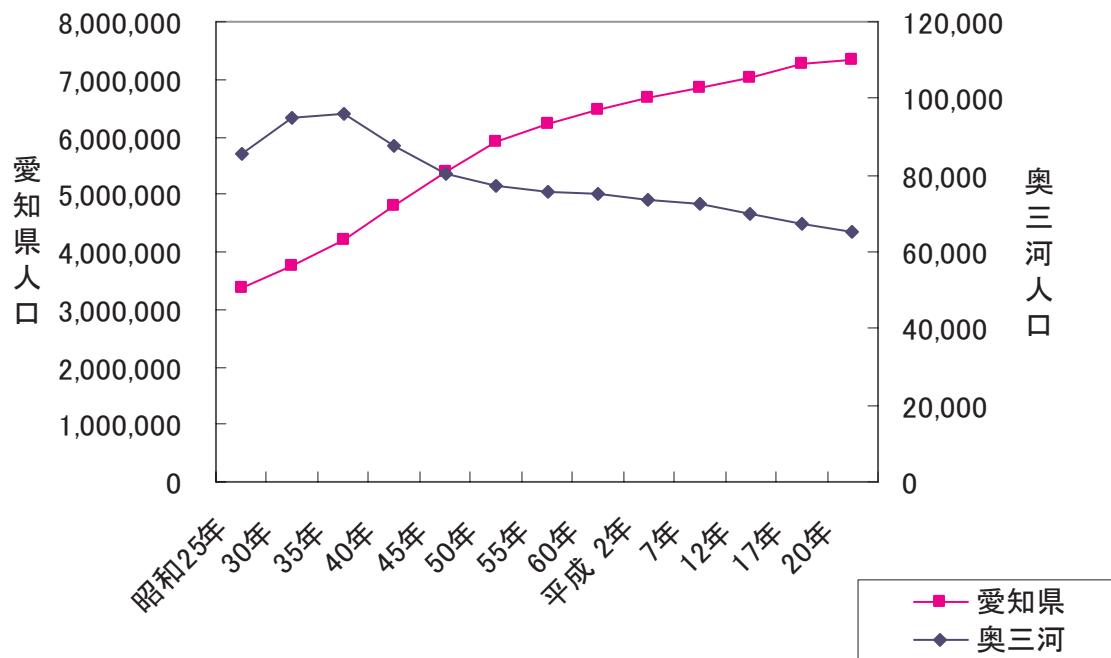
表2－1 各地域区分の生態系の特徴

地域番号	水系	地域名	地域の特徴
1	豊川水系	中流左岸地域	雨生山等の塩基性岩地質が含まれる地域。植生は、ヤブツバキクラス域で植林地が多いが、シイ、カシニセ林を含めた代償植生もみられる。本地域の雨生山、黄柳野には、塩基性岩地質に由来する特有の植生がみられ、愛知県内でも本地域特有の植物が多くみられる。このため、塩基性岩地質の場所では、植生を含めた保全の必要性が高い。
2		中流右岸地域	豊川の河岸段丘である台地地形が含まれる地域。植生はヤブツバキクラス域であるが、他の地域に比べ河川沿いに広く台地が分布しており、開発される前は湧水湿地が多く見られていた場所である。現在では、土地利用である水田雜草群落が多く含まれている。現在でも水田脇や、山裾には規模が小さいが湿地が存在している。このため、湿地性の希少な植物が生育している可能性が高いことから、現存している湿地については、周辺植生を含めた植生保全の必要性が高い。
3		鳳来地域	寒狭川(豊川)の左岸地域。明神山、鳳来寺山など流紋岩地質や堆積岩地質が含まれる地域。植生はヤブツバキクラス域で、自然植生が点在しており、その周辺にシイ、カシの二次林を含む代償植生が広く分布している。また、急峻な地形であり、岩場が多く、岩場特有の植物が多い。本地域は、愛知県内でもヤブツバキクラス域の自然林が多く残されている箇所であり、現在残されている自然林については、保全の必要性が高い。
4		寒狭川右岸地域	寒狭川(豊川)の右岸地域。寒狭川と笛頭山、竜頭山に挟まれた地域。植生は、ヤブツバキクラス域で、植林地が多いが、自然植生がほとんどなく、シイ、カシニセ林を含めた代償植生がみられる。巴川、島田川などの支流があり、河川沿いに開けた盆地があり、集落が広がっており、この周辺に水田が分布している。
5		源流地域	段戸山を含む豊川の源流地域。段戸山南側には、高標高地等の尾根筋の針葉樹林下に発達する乾性ボドゾル土壤がみられる。豊川水系の源流部であり、植生は低標高地では、植林地とヤブツバキクラス域の代償植生が多くを占めるが、暖温帯針葉樹林やヤブツバキクラス域自然植生も点在している。段戸山付近の高標高地では、ブナクラス域の自然植生、冷温帯針葉樹林が点在しており、その周辺には、ブナクラス域代償植生が分布している。愛知県下では、ブナクラス域の自然植生や冷温帯針葉樹林は少ないため、植生保全の必要性が高い。
6	天竜川水系	東栄地域	明神山の北側の地域で、流紋岩地質や堆積岩地質が含まれる地域。地形は、山地が多く平坦地は少ない。植生は、ヤブツバキクラス域で、植林地が多いが明神山の北側には二次林が多く分布している。
7		豊根地域	ダム湖であるみどり湖を含む地域。地形は、山地が多く平坦地は少ない。植生は、ヤブツバキクラス域の植生が多くを占め、植林地が多いが、みどり湖から天竜川にかけては、V字渓谷となっており、渓谷沿いにヤブツバキクラス域の自然植生が点在しており、周辺には代償植生が広く分布している。
8		富山地域	天竜川沿いにあり、地形は山地が多く、平地がほとんどない。また、急峻な地形が多く、標高差が大きい(約900m)地域であり、植生は、ヤブツバキクラス域からブナクラス域までが含まれている。天竜川沿いの低標高地では、ヤブツバキクラス域の自然植生が、日本ヶ塚山、八嶽山といった高標高地ではブナクラス域の自然植生が見られる。愛知県下では、ブナクラス域の自然植生は少ないため、植生保全の必要性が高い。
9		源流地域	茶臼山を含む地域。地形は、茶臼山周辺は高原状になっており、大入川沿いには盆地が広がっている。植生は、ブナクラス域の代償植生が広く分布しており、自然林も点在している。また、茶臼山周辺の高原地には、牧場などの二次草原がみられる。愛知県下では、ブナクラス域の自然植生は少ないため、植生保全の必要性が高い。
10	矢作川水系	三河湖地域	ダム湖である三河湖を含む地域。菅沼付近には高原状の地形が広がっている。植生は、ヤブツバキクラス域であり、山地には、植林地のほかに代償植生が広く分布している。河川沿いの平地には、土地利用である水田雜草群落が広がっている。また、長の山湿原等の多数の湿地が存在しており、湿地性の希少な植物が生育していることから、湿地については、周辺植生を含めた植生保全の必要性が高い。
11		中流左岸地域	寧比曾岳を含む地域。植生はヤブツバキクラス域の植生が多くを占め、山地には、植林地のほかに代償植生が広く分布している。また、寧比曾岳付近の高標高地には、ブナクラス域代償植生が広く分布している。
12		奥矢作湖地域	ダム湖である奥矢作湖を含む地域。急峻な地形は少なく、高原状になっている。植生は、ヤブツバキクラス域の植生が多くを占め、ブナクラス域の植生は少ない。山地には、植林地のほかに代償植生が広く分布している。河川沿いの平地には、土地利用である水田雜草群落が広がっている。
13		黒田貯水池地域	ダム湖である黒田貯水池を含む地域。段戸山、寧比曾岳を含んでおり、高原状の地形となっている。植生は、ブナクラス域の自然植生、代償植生。冷温帯針葉樹林が段戸山から寧比曾岳にかけての地域に広く分布している。また、黒田貯水池周辺には、牧場などの二次草地が含まれている。愛知県下では、ブナクラス域の自然植生や冷温帯針葉樹林は少ないため、植生保全の必要性が高い。
14		源流地域	面ノ木峠、三国山を含む地域。矢作川の源流部であり、面ノ木峠から矢作川にかけて、高原状の地形が広がっている。三国山周辺は、矢作川にかけて急峻な地形となっている。萩太郎山西側には、高標高地等の尾根筋の針葉樹林下に発達する乾性ボドゾル土壤がみられる。植生は、ブナクラス域植生が多くを占めており、面ノ木峠付近、三国山付近にはブナクラス域自然植生が分布しており、周辺には代償植生が広く分布している。また、低標高地である矢作川周辺はヤブツバキクラス域の代償植生と植林地が広く分布している。愛知県下では、ブナクラス域の自然植生は少ないため、植生保全の必要性が高い。

3 社会環境

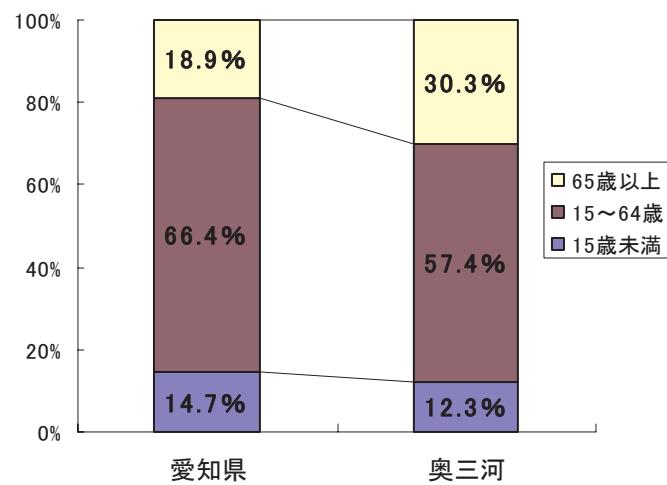
(1) 人口

昭和 25 年以降の人口の推移を県全域と奥三河で比較すると、県全域では年々増加しているのに対し、奥三河では昭和 35 年頃に約 95,000 人でピークとなった後は、減少傾向にある(図 2-13)。平成 20 年には約 65,000 人となっており、県全域の人口約 725 万人の 1% 以下となっている。また、年齢構成をみると平成 20 年における奥三河の 65 歳以上の割合が 30.3% と県全域の 18.9% を上回っており、県全域と比較して過疎化、高齢化が進んでいる(図 2-14)。



(出典) 県民生活部資料「あいちの人口」より作成

図 2-13 愛知県全域と奥三河における人口推移



(出典) 県民生活部資料「あいちの人口」より作成

図 2-14 愛知県全域と奥三河における年齢構成(平成 20 年)

(2) 林業

奥三河の森林面積は約 10 万ヘクタールあり、県全体の森林面積の約 46%を占めている。森林率は 88%と県全体の 43%に比べて非常に高くなっている。多くの場所が森林に覆われていることを示している。奥三河では、これまで盛んに林業活動が行われ、森林の 78%がスギ、ヒノキ等の人工林となっており、県全体の 64%と比較して、人工林率が高くなっている（表 2-2）。

表 2-2 奥三河と県全域の森林面積とその内訳（平成 17 年）

	土地面積(ha)	森林面積(ha)	人工林(ha)	天然林(ha)	その他(ha)	森林率	人工林率
奥三河	115,090	100,820	78,707	20,537	1,577	88%	78%
愛知県	516,063	220,069	141,212	72,351	6,506	43%	64%
県全域に対する 奥三河の割合	22%	46%	56%	28%	24%	—	—

※ 天然林は人工林以外の森林である。主に自然林と二次林が含まれる。

（出典）農林水産部資料より作成

県内の人工林のうち、間伐対象となる 16 年生から 60 年生のものが約 7 割あり、適正な管理のために間伐の推進が重要となっている（図 2-15）。県が毎年の目標としている県全体における間伐実施面積は 4,800ha だが、近年の間伐実施面積は約 2,800ha～4,100ha にとどまっている（図 2-16）。

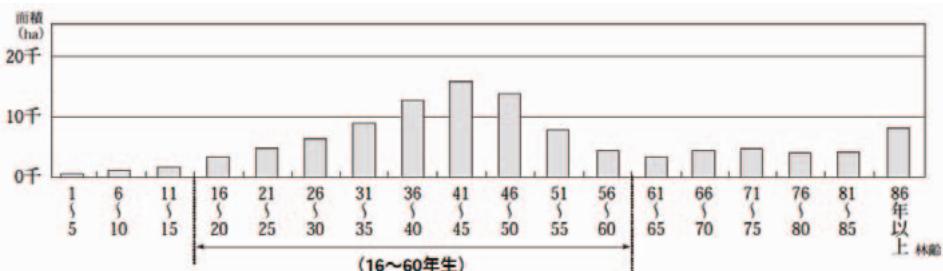
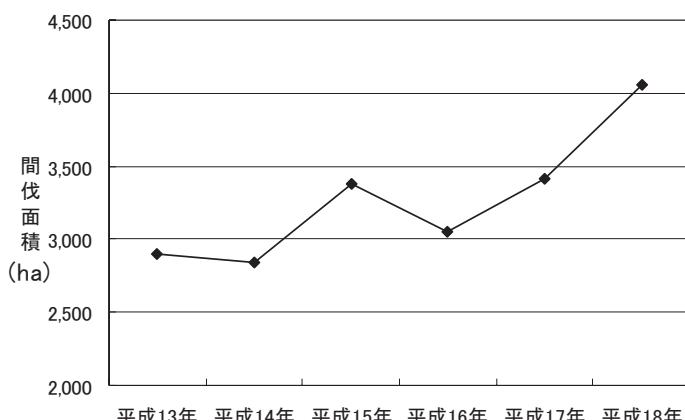


図 2-15 愛知県のスギ・ヒノキ人工林の林齢構成

（出典）農林水産部資料
「林業の動き 2008」



（出典）農林水産部資料「林業の動き 2008」より作成

図 2-16 愛知県における間伐面積の推移

愛知県の素材生産量については、昭和 48 年に約 22 万 m³であったが、それ以降減少し続け、平成 15 年には約 8 万 m³となっている（図 2-17）。

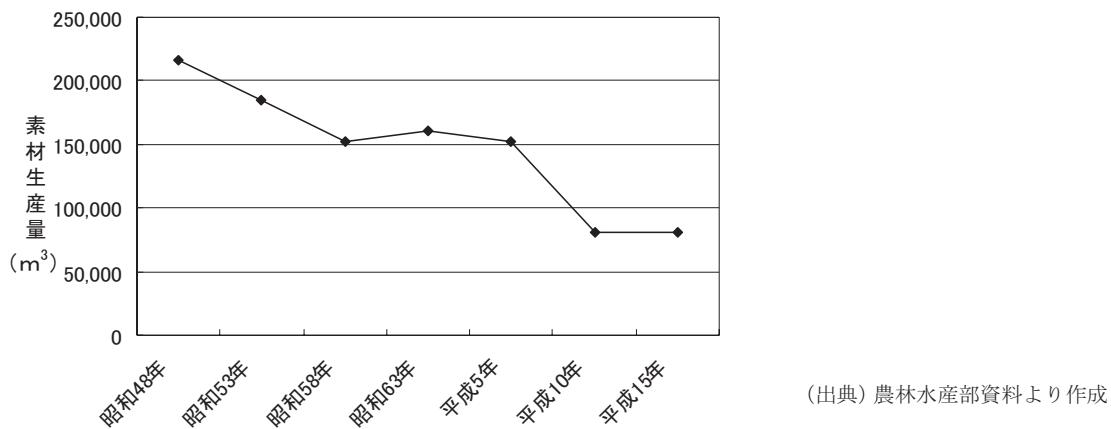


図 2-17 愛知県における素材生産量の推移

また、林業従事者については、平成 15 年時点では、県内の林業従事者の約半数が奥三河で従事しているが、林業従事者数は、減少傾向にあり、昭和 48 年の 1,926 人から平成 15 年には 333 人に減少している（図 2-18）。加えて、奥三河の林業従事者は高齢化が進んでおり、65 歳以上が全体の 65.8% を占めており、県全体の 52.4% と比較して、高齢者の占める割合が高くなっている（図 2-19）。

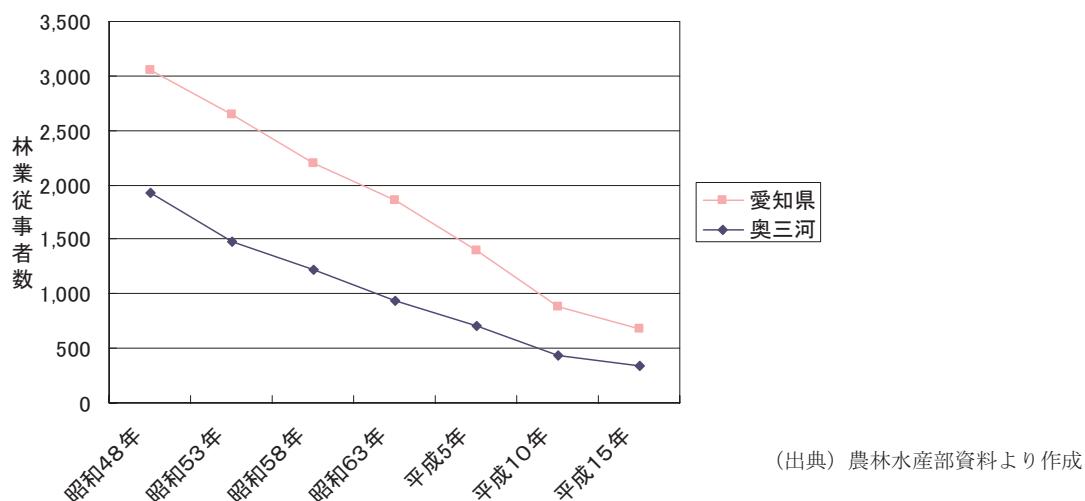


図 2-18 愛知県全域と奥三河における林業従事者数の推移

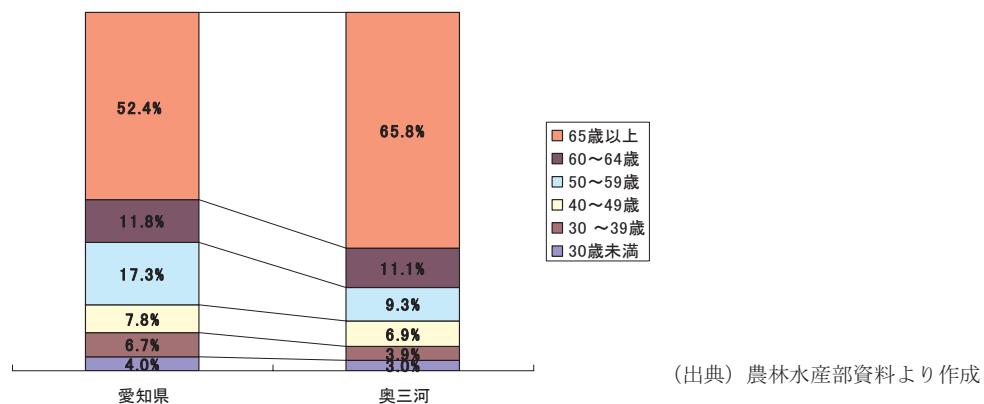


図 2-19 愛知県全域と奥三河における林業従事者の年齢構成（平成 15 年）

(3) 土地の利用規制

奥三河では、すぐれた自然の風景地を保護し適正な利用を図るため、2つの国定公園（天竜奥三河、愛知高原）と4つの県立自然公園（段戸高原、振草渓谷、本宮山、桜淵（写真2-4））が自然公園に指定されている。また、自然公園の区域外に残されているすぐれた自然林、貴重な野生動植物の生息地、特異な地形・地質などの地域を保全することを目的とした県自然環境保全地域は、豊根村の大沼、設楽町の白鳥山、新城市の吉祥山の3ヶ所が指定されている（表2-3、表2-4、図2-20）。

表2-3 奥三河における自然公園の指定状況

種別	公園名	関係市町村	面積(ha)	主な景観
国定公園	天竜奥三河	豊田市、新城市、 設楽町、東栄町、 豊根村	14,959	鳳来寺山、阿寺の七滝、鳳来湖、乳岩、 岩古谷山、面ノ木峠、茶臼山、大入渓 谷、宇連山、明神山
	愛知高原	豊田市、新城市、 設楽町	5,226	奥矢作渓谷、寧比曾岳、三河高原、三河 湖、段戸裏谷原生林
小計			20,185	
県立 自然公園	段戸高原	設楽町	3,781	段戸山、段戸山裏谷高原、出来山
	振草渓谷	東栄町	2,198	御殿山、明神山、振草高原
	本宮山	新城市	4,587	本宮山、闇薙渓谷、巴山、雁峰山、巴 川、寒狭川
	桜淵	新城市	2,517	桜淵渓谷、黄柳野、船着山、宇利峠、金 山
小計			13,083	
合計			33,268	

（出典）環境部「愛知県自然公園及び愛知県自然環境保全地域の概要」

表2-4 奥三河における県自然環境保全地域の指定状況

地域名	関係市町村	面積(ha)	特質
大沼	豊根村	15.13	<p>(植生) 標高700m付近より上部はブナを主とする落葉広葉樹林が極相に近い状態で成立し、700m以下ではウラジロガシ等の常緑広葉樹林となっており、クマシデ、トチノキなどの落葉樹及びモミ等の針葉樹も多く混生している。植生の垂直分布の推移が典型的にみられるため県内では貴重な場所となっている。</p> <p>(野生動物) 天然記念物のカモシカ、ヤマネが生息している。</p>
白鳥山	設楽町	13.61	<p>(植生) 白鳥山の上半部を中心に自然林が成立しており、特に山頂付近には県内では数少ない群落の一つであるヒメコマツ・コウヤマキの群落がみられる。また、オオミミゴケ、タチハイゴケ、イワダレゴケなど県内稀産の苔類が生育している。</p> <p>(地質) 全山が石英質の片麻岩からなり、稜線付近の岩体に晶洞が発達し水晶を産出するという特異な地質をしている。</p>
吉祥山	豊橋市、新城市	20.15	<p>(植生) 北尾根に当該地域の自然植生を知るに足る胸高直径1mを超えるシイの巨木林が小規模であるが成立している。</p> <p>(地質) 県下で比較的産出の稀な角閃石片岩で構成され、山頂付近及び北尾根にその露頭が顕著である。</p>

（出典）環境部「愛知県自然公園及び愛知県自然環境保全地域の概要」